責任編集 わかつく

特定非営利活動法人
わかやま NPO センター
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL073-424-2223 /FAX073-423-8355
e-mail info@wnc.jp URL http://www.wnc.jp/
制作 / 編集　志場久起

Vol.68

# 和歌山を創る新聞 わかつく

隔週金曜掲載

みんなの地元力
わかやま地元力 AWARD 2013
ご寄付受付中！

## 「きのくに円座（わろうだ）フォーラム 2013」7 月 25 日開催

和歌山県では 7 月 25 日に「きのくに円座フォーラム 2013」を開催することになり、現在参加者を募集しています。異業種の対話の場を世界遺産「円座石」になぞらえ、複雑化する地域課題に対応するしくみを広めていこうという試みです。

### 「新しい公共」の成果報告

総務省が設置した、地方分権社会における自治体経営のあり方を探る検討会で05年に取り上げられ、その後10年に政府が協力に推進して注目を集めた「新しい公共」の考え方。11・12年度に全国の都道府県で展開された「新しい公共支援事業」では、行政にとどまらない公共的サービスの担い手の育成のための事業が広く実施されました。

和歌山県でも14のモデル事業と9団体の基盤整備事業がおこなわれ、今年3月に事業期間は終了しましたが、今回の「円座フォーラム」はその成果報告を兼ねた総括の場と位置づけられています。

### 円座石とは？

フォーラムのタイトルにもなっている「円座石」は、熊野古道の大雲取越（新宮市）にある大きな石。熊野の神々がこの石に座り、お茶を飲んだり談笑したりしたとされています。和歌山弁で「わろうだ」と読みますが、方言の名称が世界遺産に含まれているのは非常に珍しいのだとか。

そんな円座石に座って語り合った様々な神々のように、地域づくりの担い手になる様々な行政機関や地域のNPO・ボランティア団体、企業などが一堂に会して話し合うこと、これは実は「新しい公共」の考え方にあるマルチステークホルダー・プロセス（わかつく第56号参照）そのものなのです。円座フォーラムでは、和歌山県新しい公共支援事業をベースに今後のまちづくりの手法を探ろうとしています。

### 今後につながる

和歌山県では、教育委員会で「共育コミュニティ」という取り組みを推進しています。学校などを拠点に、学校で活動している児童・生徒や教職員・保護者だけではなく、地域住民なども交えてみんなが「共にまなび」「育ちあう」場として県内各地で成果をあげています。

今後、企業の参加を積極的に呼びかける意向で、円座フォーラムがそのキックオフ的役割を果たします。

「円座フォーラム」では、様々な地域事例が登場します。行政だけでは、企業だけでは、NPOやボランティアだけでは解決できない地域課題をみんなで考え、解決に向けてともに動くきっかけづくりとして、捉えていきたいところです。

こんなことやっている団体が和歌山にあるんだ、その気づきを持ち帰っていただければと思います。

（志場久起）

**きのくに円座フォーラム 2013**
■ 開催日　7 月 25 日（木）10:15 ～ 15:00
■ 場所　和歌山マリーナシティ・ロイヤルパインズホテル　2F わかのうら
■ 内容
10:15 ～ 11:45　パネルディスカッション
コーディネーター　和大経済学部教授　足立 基浩さん
パネリスト　行政／県教委共育コミュニティ推進室長　雜賀敏浩さん
企業／菱岡工業（株）・NPO 法人ジョイ・コム理事長　岡田 亜紀さん
団体／紀の川市商工会会長　高田 亮平さん
NPO ／和歌山県 NPO サポートセンター副センター長　志場 久起
13:00 ～ 15:00　和歌山県「新しい公共モデル事業」実施 14 団体による事例報告
15:00 ～ 16:00　交流タイム（自由参加）
■ 参加無料
■ 問い合わせ　和歌山県 NPO・県民活動推進室（073-441-2364）

みんなでつくる情報板
## わかやまイベントボード

**●障害者・市民の夏まつり**
和歌山市を中心とした共同作業所や福祉施設が一堂に会します。
日時　7 月 20 日（土）
17:00 ～ 21:00
場所　和歌山城西の丸広場
内容　夜店・抽選会・ステージイベントなど
入場料　無料（参加協力券購入で抽選会参加可能）
問い合わせ　障害者・市民の夏まつり実行委員会
（073-474-2466）

**●夜の生き物観察会**
普段は入ることができない夜の森で生き物観察を楽しみませんか。
日時　7 月 20 日（土）18:00 ～
場所　和歌山県立森林公園・根来山げんきの森（岩出市根来）
参加費　1 人 200 円
定員　50 名（事前申込み必要）
申込み・問い合わせ　根来山げんきの森（0736-61-7233）

**●月イチ就活セミナー第 1 回・自己理解**
7 月から開講の月 1 回のセミナーです。
日時　7 月 24 日（水）
14:00 ～ 15:30
場所　若者サポートステーションわかやま（和歌山市本町 2-40 聖ソレイユビル 4 階）
講師　貴志典生さん（キャリア・コンサルタント）
定員　5 名（事前申込み必要・22 日締切）
参加費　無料
問い合わせ　若者サポートステーションわかやま
（073-427-3500）
備考　8 月のセミナーは応募書類がテーマ。

**●おどるんや～紀州よさこい祭り～**
今年は 10 周年記念の企画が満載です。
日時　7 月 28 日（日）・8 月 3 日（土）・8 月 4 日（日）
場所　7 月 28 日：和歌山マリーナシティ、8 月 3 日：JR 和歌山駅前・ぶらくり・和歌山城砂の丸広場、8 月 4 日：高松・モンティグレ・和歌山城砂の丸広場・けやき大通り
問い合わせ　NPO 紀州お祭りプロジェクト（073-426-4424）
備考　開催に関する情報は Web サイトで随時更新。
（http://www.kishu-yosakoi.jp/）

このほかの情報もたくさん掲載！
「わかやまイベントボード」URL
PC 版　http://eventboard.shiminjuku.jp/
携帯電話版　http://eventboard.shiminjuku.jp/m/

JI-MO TIMES Vol.2

## その困りごと、ほっとけますか？

一般財団法人わかやま地元力応援基金　理事 **川口充紀さん**

和歌山市在住。
特定非営利活動法人トレス理事長、
特定非営利活動法人子どもセンターるーも理事、
和歌山県新しい公共支援事業運営委員会委員など。

### 原点

「和歌山から県外に出たいと思うこともあった。何度かチャンスもあった。」

和歌山市で生まれ、市内の高校と大学に進学し、大手旅行代理店に就職するも勤務先は和歌山市だった。その旅行代理店を15年勤めた後、外資系の保険会社に転職。

人生の転機が訪れたのは40歳のとき。県外に就職した中学・高校時代の友人たちとの宴席で、きまって話題に上るのは地元・和歌山への憂いだった。「県外に暮らす友人が和歌山を憂うならまだしも、和歌山に生まれ、育ち、今も和歌山で働き暮らしている私自身までもが、どこか部外者的な考えでいることに、気づかされることもよくあった。」と、川口氏は言う。

友人に連れられて薬物依存者への電話相談の受け手養成講座を受講したことがきっかけで、市民活動に関心を持ち始め、児童養護施設へのスポーツチャンバラ指導のボランティアを経て、08年、和歌山で初となる自立援助ホームを開設した。自立援助ホームとは、義務教育終了後15歳から20歳未満で、家族による支えが期待できないにもかかわらず、働いて自立をせざるを得ない児童を預かり、生活や就労の援助をおこなう家のことである。多くは虐待などの事由による児童相談所からの委託による入所であるが、稀に軽微な非行であっても家族に少年を受け止める力がなくて家庭裁判所から依頼されて入所する場合もある。いずれにせよ、子どもたちが一人でも多く自立してゆくことは、将来の私たちの社会を支える担い手を増やすことになるとの想いが活動の原動力となっている。

「ないならつくる。つくるには声をあげる。困りごとをひとごとだからとほってはおけない。」

### どうして理事になったのか

トレスの理事長としてNPO活動に関わる中で、県下のNPO法人の将来に危機感を感じ、新しい公共支援事業の運営委員になった。NPOは今ある課題を解決して、次の課題に取り組んでいく。そのために必要な財源や人材を整えていく必要がある。そうした活動を支えるひとつとして市民ファンド（寄付を仲介する組織）が必要だと思い、研究会に参加、理事に就任した。

### メッセージ

「その困りごと、ほっとけますか？」

困りごとを他人任せにせず、自ら解決する必要性を川口氏は訴える。

和歌山のように県外からの資金や資源の投資が少ない土地では、地元のために地元の人が寄付という形で投資をする必要性を感じている。

寄付は「未来の社会への投資」とも言えるのではないだろうか。

地元力財団 わかやま地元力応援基金
640-8331
和歌山市美園町 5-6-12（みその商店街東通り）
Tel.073-428-0011　Fax.073-428-0012　URL www.jimotofund.com

取材：出原敬介
編集：児玉夏希